# LUZの熊野古道案内

2005年9月　上

9月1日～10日

je2luz.exblog.jp

目次

２００５年９月


9月 1日　番外　吉野から熊野へ　龍神村
9月 2日　番外　廃藩置県と吉野・熊野
9月 3日　熊野の町、村の変遷　合併
9月 4日　熊野古道の標識
9月 5日　熊野古道関連事業　1
9月 6日　熊野古道関連事業　2
9月 7日　熊野古道関連事業　3
9月 8日　熊野古道関連事業　4
9月 9日　熊野古道関連事業　5
9月10日　熊野古道関連事業　6
9月11日　熊野の周辺　なぜ北山？

2005年　09月　01日

## 熊野の旅　番外　奈良県吉野郡

吉野から南、熊野市の境までは奈良県吉野郡になります。

山岳信仰のメッカとなるだけあって、まさに山又山の地域です。

全国時に有名なのの は『大台ケ原』『大峰山』…生駒山とか足柄山などというものではありません。人跡未踏の場所があるといわれる山です。そしてこれらを抱えるのが吉野郡です。

吉野郡２２５７．７９ｈｋｍでは３６９１．０９ｈｋｍある奈良県の６１％の面積を占める広さです。中でも十津川村は６７２．３５ｈｋｍもあり奈良県の１８％を占める広大なものです。これは本州で一番広いはずです。国道１６８号線を走ると走っても走っても十津川村から抜けません。

この広大な吉野郡も人口に関しては５７０００人弱しか居ません。それも北の端の三町に３万８千人住んでしまい残りの１０村は過疎の典型となっています。

折りしも今衆議院の選挙をやっていますがここを選挙区にする人は大変だと思います。私のところの三重県５区も伊勢路から熊野路まで片道１３０Km ある広いものですが地形的にはこの吉野郡を抱えるほうが大変だと思います。国道１６９号線、国道１６８号線、国道３０９号線どれをとってもまともに民家はありません。やたらとダムか一杯ありますがそれを除けば自然が一杯です。かといって、岐阜、長野の山岳地帯と違い緑に覆われた山ばかりです。本州の中心に位置し、奈良の都からも近かかったのに・・・吉野村から南に来たのは落人だけ…南北朝では負けた南朝が、源平の戦いでは負けた平家の落ち武者が、関が原の時も負けた豊臣の残党が落ちてきたようです。今の時代でもこの吉野の山中を回るのは大変なのに昔なら、探すことも出来なかったでしょうね。それに、勢力を蓄えて挙兵しようにも兵糧も無く人も居ないところでは再起してくる恐れもありませんからね。

私の母はここの下北山村の出になります。従って、下北山村とはゆかりがあり、子供の頃には毎年ここに行っていました。この辺の習慣で正月、彼岸、お盆などに本家や嫁の里に餅を持って礼に行くためです。

今以上に、下北山村は山の中でした。熊野の田舎物から見てももっと田舎でした。しかし、下北山を通らないと熊野から都へは行けないのです…

下北山、上北山に関しては写真が無いので後日アップすることにします。その時にもう一度この周辺を取り上げたいと思います。　by **je2luz** | 2005-09-01 13:53

2005年　09月　02日

## 熊野の旅　番外　廃藩置県と吉野・熊野

吉野郡の大部分を占める山間部は**天領**であったようです。と言うより、こんな地形のところをわざわざ欲しがる殿様も居なかったでしょう。天領であったので明治維新前夜には十津川から**十津川郷士**と呼ばれる半農の武力集団が京に登り、天皇警護という名目で随分暴れまわったようです。そうして集団の一部に**天誅組**があり、その足跡は下北山村にも残っているようです。下北山村浦向にある母方の菩提寺の山門には刀傷が残っています。

こうした急峻な地形で他との結びつきもさほど強くなかったのでしょうか、廃藩置県の時しばらくは下北山村などは**堺県**に所属していたようです。どちらかと言うと行

き場所が無かった感じかも知れません。これは同じく母方の家の書類で知りました。最初の電気は今は関西電力に合併成長した『宇治川電気』だったようです。

熊野のほうは御三家**『紀州藩』**の端っこに位置していました。この紀州藩はこれまた広いものでした。紀伊長島町までですからかなりのものです。

広すぎたのでしょうか、新宮との境に大きな川**『熊野川』**があるのを丁度良いとばかりにこちら側は切り離されて、伊勢、藤堂藩などと一緒にされ、**三重県**になってしまいました。今でこそ、道路も通じ、鉄道も通じていますが、切り離されてから昭和35 年までは県庁からは地の果てのようなところでした。三重県のお荷物、と言うより紀州にも見放された場所でした。

言葉、食べ物全てが紀州そのものでした。しかし、100 年の長い年月が徐々に熊野川の東側を三重県になじませてゆきました。

吉野郡各村も天領から奈良県へ、当初は筏下りなどもあり経済的には下流の新宮・熊野と強く結びついていたのですが、これも徐々に奈良県中心部への帰属が強くなっています。

このように歴史も変って行っています。さらにこれからの 100 年はどう変えるのでしょうか。人が変る前に、人が居なくなるのかもしれません。

そして、熊野は再び海の底に・・・

by **je2luz** | 2005-09-02 05:4

2005年 09月 03日

## 熊野の旅　熊野の町、村の変遷　合併

今でこそここは『熊野市』を名乗っていますが、当然のように昔は町と村ばかりでした。昭和の大合併で全国に市が一杯生まれた時に法律の制限人口三万をぎりぎりで越えて市になったのです。

紀伊半島の南は古くから暖かいところとされ、それを起源とする『牟婁』（むろ）の地と呼ばれていました。近代になって県市郡制になったときにも、地域は和歌山県と三重県に分断されましたが地域名は和歌山県に東牟婁郡・西牟婁郡、三重県に北牟婁郡・南牟婁郡と東西南北揃った形で『牟婁』が残りました。

その中の南牟婁郡が大合併に動きを見せましたが、あまりにも広いと言うこと、交通の便が悪すぎると言うこと、地域エゴなどで成功せず、荒坂村（あらさか）・飛鳥村（あすか）・新鹿村（あたしか）・五郷村（いさと）・神川村（かみかわ）・泊村（とまり）・有井村（ありい）・木本町（きのもと）の８町村が合併して『熊野市』を誕生させたのです。

合併したのは私が子供のときですが、合併を祝う歌も作られ、旗行列をして市内各地で祝ったものです。

出だしを忘れましたが

・・・・ここ紀の国の南の　８つ町村全あわせ

今新しく生まれたる

熊野　熊野市　栄えあれ

などというものでした。昭和の大合併の時にはこうした祝賀行事は全国で見られたものです。それにひきかえ平成の大合併では住民参加の祝賀行事などほとんど無いようですね。『合併したところで・・・』という現実が住民に分かっているからでしょうね。

南牟婁郡大合併がならなかったので郡としての名前は残りました。そちらの方でも、村々が合併して紀和町・紀宝町・御浜町が出来、財政豊かな鵜殿は単独で村のままで残りました。

平成の押し付け合併の時も当然のように熊野市、南牟婁郡４自治体の大合併が議題になりました。しかし、早々と頓挫、ばらばらになった協議会が鵜殿＋紀宝＝新町誕生になり、残りの紀和＋御浜＋熊野になるはずが、表面的には市庁舎の位置問題が決着を見ないという理由で不成立になりました。その結果熊野＋紀和＝熊野市という数式が成立してしまいました。

貧乏・過疎の熊野市と東海有数の過疎の町紀和町が合併して何かあるのでしょうかね。

熊野市から紀和町へは国道３１１号線。昔の風伝越え本宮道を行くわけです。元々、人口は二万しか居なくて東海地区で No.１を誇った熊野市がここを吸収しても？？？人口密度では一番暮らしよい市が出来そうです。老人天国ですね。老齢者比率３０％は越えているでしょうね。

このように、熊野の町村は昭和、平成と名前を変えてきましたが、昭和３０年代が終わると共に過疎の進行が加速して人口の１／３が減りました。紀和のごときは銅山の閉鎖と共に人口は１／３に減ってしまいました。

世界遺産という意味では破壊からは守られるでしょうね。しかし、住む人も居なく

なってきているところに観光施設を作って観光客を誘致しよう…と言う動きは相変わらずありますね。そして、熊野古道を訪ねてくる人のかなりの部分が、そうした作られた古道や金太郎飴の施設を喜ぶ向きがあるのが残念です。そうした人のほうが声が大きいのですね。

荒れたままの古道でも古のままの石段を足場を探しながら歩き、自然に抱かれた熊野の地と古人の熊野詣の苦労を実感することをよしとする人は黙ってうなずくだけです。

熊野は観光地にあらず・・・

迎えてくれるのは『神々と自然』です。

それを求める人だけが良さを実感できると思います。

熊野古道・熊野市内・松本峠・・・比較的手の加えられていない古道です。

カメラは　イコフレックス２ａテッサー７５ｍｍ by **je2luz** | 2005-09-03 14:38

2005年　09月　04日

## 熊野の旅　熊野古道の標識

全国どこへ行っても最近では立派な観光案内版や標識が立っています。

熊野市も熊野古道の話が出る前から『観光立市』とかで観光スポットの案内板の他に、例の『歓迎・〇〇市』などという看板を市の入り口に作り、その他のも小さなものを少し配置しました。それこそ、その頃の自治体数3300ほどでしたがそのうち３０００は作っている代物です。海岸線で腐食が早いと言う理由でステンレスを加工して作りましたが、予算を見てびっくり…どこでも同じですがこうしたものの値段は驚くほどのものなのです。酒屋の看板の比ではありません。

それ以降も随時増やしてきました。そして、世界遺産指定になると、国・県の補助がつくようになり一気に増えました。痛んでいないものも挿げ替えちゃいました。何せ、オリンピックでも国体でも国立公園でもこうした予算が使えるのが嬉しいのが地方自治体ですからね。

この立派な石塔は私に自宅のすぐそばの国道脇に立っているものです。紀州御影では無いんですね。那智黒なのでしょうね。　もうひとつは近代的なものです。こちらの方が古いのです。不思議なことにこんな小さな標識のメインの字が車道の方を向いています。不思議な建造物です。

あまりにも高いのであちこちにしかありません。ほんの少しだけ役立っているだけでしょうね。

古道歩きの人はほとんどガイドの地図を片手ですから、あちこちに張られているステッカーの方が役立つ間も知れませんね。

こうした投資が役所にとっては『熊野古道による地元活性化』の目に見える実績になるのです。職員は真剣にそう思っています。思わなければやってゆけないでしょうしね。

本宮大社・那智山などはきちんとしたポイントがあるので観光客も集まり良いのですが、そもそもこれらの霊場を除く熊野古道というのは道そのものですし、全長何百キロにも及ぶので、残されているのは辺鄙なのとこれが飛び飛びです。いわゆる観光には向かないのです。又、熊野古道にきたら、制服を来たバスガイドさんが旗を持って『みなさーん、ここが熊野古道でーす。足元がお悪いのでお気をつけくださーい』なんて、やっていたら興醒めでしょうね。

来られる方は、一人で・・・グループで・・少なくとも自分達だけで静かに歩きたいはずなのですが・・・

そうでもないのかなあ・・・日本人は何も無いということが不安で不満に感じる種族に変わってきていますからね。

侘び・寂び・・・・無・空・・・・そんな世界は遠くなったのでしょうかね。

しかし、誰もいない熊野の山と熊野の海にはそれがあります。なるべく少人数で気ままに歩いてください。

by **je2luz** | 2005-09-04 06:17

2005 年　09 月　05 日

## 熊野の旅　熊野古道関連事業　1

熊野古道が世界遺産に指定され。当初はここ熊野にもハイカーが多く見られました。しかし、その客足も段々落ちてきました。

レピーターが来ることはほとんど無い所です。古道踏破を考える人は何度も紀州を訪れます。しかし、同じ道は歩きません。信仰の面で訪れる人は本宮・速玉・那智の三社には何度でも参拝しますが、熊野古道はそこへの道に過ぎないのです。

都会の街中や郊外にある京都疎水の道などとは違いますから、物思いにふけるため…なんて場所ではありません。

役所や『世界遺産』という金看板に期待した人たちは『なぜ客足が伸びない？』と、考えました。その結果、『歓迎ムードが足りないのだろう』という結論になりました。手作りの手書きの幟が染め抜きになり、道路標識が立てられ、歓迎施設？は増えました。それでも人は増えません。まして、お金は落ちません。そこで考えたのが『町のムードを高めよう』でした。その方向がやはり、公共事業誘致の方向に大きく傾きました。以前に紹介した町屋の残る『本町通り』の舗装をやり直して『石畳』にしよう・・・と言うものでした。役所の方は二つ返事でというより役所の方が熱心に動きました。

全国随分この形の街作りを見させていただきました。真新しい石畳が立派でも町並みにはそぐわない・・・結構多いです。ドイツのロマンティック・シュトラーセの石畳のように町と共にあったものではないからです。きれいに切り出され磨かれた敷石が並ぶ・・・最近では石は濡れると滑るからと表面をもう一度加工してノンスリップ加工したものまであります。ここ本町は設計段階ですがそのノンスリップ石材になりそうです。

今のところ、普段この道を歩く観光客はほとんど無し…です。並行する国道を歩く人のほうがまだ多いくらいです。

元々、本町は砂利道でした。ふんだんにある玉砂利を敷き詰めるので『ガシャガシャ』と言う音が響いていたものです。ほこりは立つし、歩きにくいし…それに戻すわけには行か無いでしょうがね。

後数年すればこの本町通りは石畳で皆さんを迎えてくれるでしょうね。ただし、10

年も経つと無人の家がずらりと並びます。ぐっと世界遺産的になります。
　ただ、熊野古道自体は数百年の時を越えてきたものです、こんな小さな変化ではびくともしません。御安心ください。

by **je2luz** | 2005-09-05 13:32

2005年　09月　06日

## 熊野の旅　熊野古道関連事業　２

　世界遺産誘致の当時から、いわゆる実績作りとしての事業が古道沿線で随分行われました。
　言い出しっぺは三重県知事ですから三重県側のほうが早くから熱心でした。三重県の南の端の方、紀州藩領だったところを『東紀州』と呼ぶようになり、『東紀州活性化計画』の中から浮上してきたのが『世界遺産』でした。その前にあったのがあっという間に頓挫した『リゾート法』によるリゾート開発計画です。頓挫はしたのですがその事業の残骸はいまだにくすぶっています。
　戦後の一大事業として開発した『金山パイロット』（かなやま）の蜜柑園をぶっ潰してゴルフ場にしようという計画です。名古屋から２２０Km 大阪から１８０Km も離れたところに無理矢理ゴルフ場を作って誰が来るのでしょうね。計画段階で全国でゴルフ場が過剰になり、会員権販売が詐欺だと騒がれていました。おかげさまでゴルフ場は計画段階で中止になりました。その後は、『フルーツフラワーパーク』などというものが浮上しました。これも神戸の近くとか名古屋の近くに作られた施設です。『世界のフルーツの木を植えて観光客を誘致する』がうたい文句でした。東京からの交通費がグアム島より高いところへ作り物の熱帯果実を植えて誰が見て嬉しいでしょうね。独自性も何もなし・・・
　どうしてそうなる？理由はコンサルタントと言う無責任集団にあるのです。昔からこの手の会社はまともに考えもしないで企画書を作ります。ひどいときは同じものの、地名が〇〇市から××町に変わるだけなんてのも存在するのです。地元の企画力のなさの他に、補助金を得るためにはこのコンサルタント会社の企画書が必須条件なのです。なぜ？裏は分かるでしょう・・・
　これら一連の計画が作られ変更され流れてしまうまでに、恐ろしいだけのコンサルタント料が支出されています。全国の納税者の方に申し訳ないことです。くだらない計画、頓挫するのが分かっている計画にお一人様 10 円以上に寄付を頂いたのですから・・・ただ、このお金は熊野では使われていません。田舎で書くことが許されないものですからね。
　熊野古道世界遺産計画も企画段階でのものすごい出費、どうしてここまでやるの？という実績作り・・・恐ろしいものでした。こうした実態はあまり表に出ませんし、無駄の固まりでも表面だけ見て『歓迎ムードがある』とか『よく整備されている』とかよその人は簡単に受け止めているときがありますね。
　果たして、熊野古道にそれが要るのか？？ここがなぜ世界遺産の価値があるのか？？

もっと、何も無いことの良さが分かってもらえるようにならないと、熊野古道のようなものは長続きしないでしょうね。
でも、これからも、客が来ないから企画の見直しとか…
ひたすら神に会いたくて越えてきた峠なのですから…そのままで来たい人だけに来てもらって・・・道を聞かれてら指差して教えてあげて…曲がり角まで案内してあげて…
それが一番だと思うのですがね。

案内板に頼らなくてもどこの家でも聞いていただけば道は教えてくれますよ。熊野には忙しい人は居ませんから・・・ by **je2luz** | 2005-09-06 05:34

2005 年　09 月　07 日

## 熊野の旅　熊野古道関連事業　３

熊野・伊勢街道の現代版、国道 42 号線は紀伊半島を半周する大動脈です。このぐるっと回るネックレス状の 42 号線から関西方面にショートカットするように山越えをするのが新宮から熊野川・十津川を遡る国道１６８号線と熊野から支流の大又川に合流しさらに北山川を遡り大台ケ原の足元を抜ける国道 169 号線です。
熊野の中心部を走る国道 42 号線は昔の浜街道（御浜街道）をその通りに走っています。
熊野の中心部では最近大幅改修がなされ吸水性舗装になり、ものすごい豪雨の時以外は道路に水が浮かず走りよいものになっています。そして２ｍほどであった歩道が今の規格の３ｍ歩道になりました。もとの歩道には椰子の類が植えられ３０年以上経っていましたが、背の低い品種であったこともありますが『見通しが悪い』『場所を取る』と言う理由で撤去されてしまいました。その代わりに小さな花壇がベルト状に作られました。『古道を訪ねてくる人の安らぎのため』だそうです。
私は子供のときから花壇作りとかをやってきましたが、こうした公設花壇に疑問があるのです。植物を本当に好きならこうした花壇は絶対に出来ないからです。
散策される方はほとんど年中きれいに花の咲いた花壇の脇を歩けるでしょう。しかし、ベルト状に花壇が年中花で埋まるはずは無いのです。花が育つ間、それはポット栽培で育てるにしても、開花期を過ぎて衰えかけた時期もあるはずです。しかし、こうした花壇ではそれが無いのです。盛りであろうと全ての株を引き抜いて廃棄してしまいます。そして開花期のものを植えて行きます。それが年中繰り返されるのです。

表面的な花好きにはいいのでしょうね。しかし…
　今は夏の花が全部抜かれて更地になっています。次は何を植えてくれるのでしょうね。
　幸いなことに我が家の町内だけはこの花壇が無いので残酷な所業を直接見なくて済んでいます。『作るな』と言ったわけではないですよ。車乗り入れの切り下げ区間が多いので作れなかっただけです。
　このようにして、盛りの花を犠牲にしてでも『歓迎』してくれていますから。花々にも手を合わせてやってください。
　歩道に設置された点字ブロックと歩道切れ目の段差解消はいいことだと思います。これも全市と言うわけには行きませんから・・・

by **je2luz** | 2005-09-07 14:40 |

2005 年　09 月　08 日

## 熊野の旅　熊野古道関連事業　４

　**熊野古道**が世界遺産登録されたことで、地元では色んな期待が膨らんだことも確かです。無理も無いです、庶民にとっては、なにせ**『世界遺産』**なのですから、**『国立公園』**とは違い世界中に有名になり金髪や色の黒い人まで行列すると思った人までいるのです。少なくとも**『白川郷』**のように観光客がどっと押し寄せると思った人は多いです。
　**『熊野古道と吉野の霊場』**全部足せば、そりゃ白川郷より多いはずです。世界遺産登録し無くったって高野山だけではるかに多いはずですからね。
　街中で聞かれるのは『思うたほど人は来んのう…』『やっぱり、ちゃんとした施設を作らんとあかんのかのう…』というようなことです。熊野三山。吉野の霊場などを除いたその道すがらの熊野古道部分は今くらい来ていれば上等だと思うのですがね。なにせ全長何百キロであちこちに分散して残っていますからね。一日５０００人でも１００箇所に分散すれば５０人平均ですからね。
　観光客も盛り場の客と同じで移り気なものです。近代ではマスコミの影響もあり、観光の中心はどんどん移って行きます。いつも書くように国内の交通費の高さから海

外に流出する観光客も多いです。レピーターの見込めない所は非常に難しいのです。地元にとって『ええとこや』という部分が他の場所にも一杯あったのでは集客力は低下します。熊野古道は最初から分散されています。『ええとこ、いっぱいあるで』なのです。『何処でもええさか、見に来ての・・・』なのです。

受け入れ施設として熊野市の場合以前、にも取り上げたように、地元を離れた旧家の方が自宅を寄付してくれたのでそれを活用して休憩所を兼ねて開放しています。新規ではないので当初は安く上がりましたし、典型的な熊野の高級建築ですから、観光客向けには最適なものです。ただ、ランニングに関してはものすごいお荷物ですが・・・

これには飽き足らず『観光会館』が必要だとか分断されている古道各所に『休憩所兼物産会館』を作れ…などと言う声がでています。『駅前再開発』などと言うとんでもない大事業まで浮かんできます。

これは何も熊野市だけの話ではありません。世界遺産に関連する自治体全部に共通する話なのです。施設を作ったら、自分達で運営し、赤字になろうと責任をもって維持すると言うように飛び込む気の無い無責任アイデア？ばかりです。今は、当初に作った休憩所が地元のお年寄りの方々のボランティアで維持されています。これが続いてくれると良いのですが…

遍路道にはこうした心づくしのお休み所が点々と存在します。これが本来の参詣道路のはずです。でも、熊野古道が参詣道でなくなって百年数十年にもなるでしょうから…

あるがままの大自然の中の険しい道が『熊野古道』です。各地の書き込み帳などに『休憩所が欲しい』などと単純に書かないでください。『空き家の民家でもいいから。庭先を使わせて欲しい・・・』と言うような書き方をしてください。そうでないと、一箇所で数千万かけて似つかわしくないものを作ってくれますからね。

by **je2luz** | 2005-09-08 13:22

2005年　09月　09日

## 熊野の旅　熊野古道関連事業　5

熊野市の観光と言うと最近はすっかり『熊野古道』になってしまいました。

元々、熊野を有名にしてきたのは**『鬼ヶ城』**でした。もっとも、「鬼が島」とか間違われることは多かったですがね。

その鬼ヶ城が主役の座を下ろされちゃったのか、観光関連予算がそちらに回らないようです。

鬼ヶ城は熊野灘の荒波が削りだした奇景なのです。当然今も削り続けているわけですから、少しずつ崩れていってもおかしくないのです。まして、人為的に作った遊歩道などは壊れて当たり前でしょう。

この遊歩道は随分前の高波で手すりの一部などが流失して、今は『危険・立ち入り禁止』の看板が両方の入り口に括りつけられたままになっています。予算が回らないようです。つまり、周遊できるはずが出来なくなっています。確かに、鬼ヶ城の観光と言えば東側から入った『千畳敷』をみて、その先の絶壁部分を遠くから見て終わりと言うケースが多いのですが、自然の雄大さを実感するにはやはり周遊することが一番です。

危険と言えば危険なのですが、昔と違い随分高いところに遊歩道が作られ、普通の時に波にさらわれることもなくなっています。しかし、どういう訳か、観光客の人の行動が常軌を逸するようになったのはここだけでは無いようですね。

そもそも、二十年以上前だと思いますが、観光バスで来たお客さんが台風の余波で危険な状態の鬼ヶ城に近づき、当然のようにさらわれて命を落としました。その時、今流に裁判が起こされ、バス会社と共に熊野市も賠償を請求され最終的に支払うことになりました。それ以来、ほんの少しでも波があれば立ち入り禁止の看板を出すように成りましたね。地元の人からすれば、『あんな日に、磯まで出るのは阿呆や。もってかれて当たり前や』と言うことなのですがね。

万全を期すまで公式には立ち入り可能にはならないのでしょうね。釣り人は一杯入っていますが・・・

波が静かな時には遊歩道を離れないようにしながらですが、一周する事をお勧めします。ゆっくりと回れば海の大きさと力強さを実感できます。

主役の座を一時的に降りて、いや、降ろされていますが『鬼ヶ城』はやはり主役だと思います。
カメラは　コダック・メダリスト・エクター100mm　by je2luz | 2005-09-09 05:58

2005年　09月　10日

## 熊野の旅　熊野古道関連事業　6

熊野市には昔からの名勝として『鬼ヶ城』と共に『獅子岩』があります。
これは国道のそばにあり、いいことには国道のそばの旧道の部分を使った展望台から見るのが一番良いという皆に見てもらえるものです。おまけに、標準レンズでドンぴしゃり画面に納まると言うものです。誰が撮っても『獅子岩』を撮ったのがわかるし、なぜ獅子岩なのかも分かります。　ここはこうした立地条件から、なんの設備もいらずお金の掛からない優等生です。その代わり、歩き回らないのでお金の落ちない場所です。
この獅子岩は鬼ヶ城同様砂岩のような「石英粗面岩」が浸食されたまたま狛犬のような形になったものです。近づくと細かい砂が固まったようなものだと言うのがよく分かります。
海の底から顔を出し、波に削られ、風に削られて出来たものですし、今も風化は進んでいます。風化の始まっていない黒っぽい部分はさほどでもないのですが、黄色っぽい部分は、少しずつ新しい表面が出てくるので苔も微生物もついていないのです。
写真で見るように胴体部分も大きな侵食が進んでいますが、複雑な顎の部分はあの重い岩が重力に逆らって突き出しているものです。特に下あごは上下から浸食されます。
この下あごは私が知っているだけで２回崩落しています。落ちてきた岩は大きなものでした。当たれば即死なんてものではありません。人力で動くようなものではありませんでした。
その結果、下あごが少し小さくなってしまいましたが、展望台から見ると今でも『獅子』の形は保っています。
この形が維持できないことはっきりしていることなので、一度、対策しようでは無いか…と動いてみたことがあります。
石の風化を止めることは樹脂加工などで可能ですが、この砂岩のような色の薄いものの色合いと風合いを変えずに加工することはかなり難しいものらしいです。
更に、この獅子岩は『特別天然記念物』です。当時の所轄官庁の文部省に問い合わせると、『天然記念物指定とは自然を守るためですから、風化が進むならそれに任せ、落ちるものは落としてしまうのが筋です。』という当然と言えば当然の答えが返ってきました。『文化財』とは違うのですからね。
最近、保存に関しての動きが再燃しているようです。そもそも、これが『天然記念物』であることが不思議なのですが・・・国立公園指定とかドサクサでやったようです。その指定は見直したほうがいいような気もします。解除したからと言って開発して宅地になったり、遊園地になったりはしませんからね。むしろ、砂利の減少で再び

磯に戻るか海面上昇で海に戻るかの方が現実味があります。
　土砂ではありませんから、今年、来年と言う期限では無いですが、そのうち残った下あごも重力に耐え切れず欠けてゆくのでしょうね。下あごが無ければただの岩です。
　お金にならない名勝ですが、作り物で無い自然の面白さですから、現状保護はしても良いのではないかと思います。

カメラは　コダック・メダリスト１　エクター**100mm**

**je2luz** | 2005-09-10 12:30